2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 ＜概評＞ 「学生による授業評価アンケート」の回答は学習成果を測定する指標として十分とはいえないが、「卒業生アンケート」の学習成果に関する設問は指標としては適切であるといえる 学習成果の指標の開発については、ポートフォリオ、ルーブリック等の開発が必要であり、「全学教務委員会」においてその制度設計を行うとしているので、今後の検討に期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目　4-4	成果　【自己評定　C】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	学生の学習成果を測定するための評価指標は設定していない。2 年次から 3 年次に進級する際に、中国語学科 28 単位以上、英語学科 40 単位以上、日本語学科 36 単位以上の進級要件を設定している(A4-4-1 第 23 条の 12 第 5 項)。 2016 年度の学生による授業評価アンケートでは、「Q17.この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。」「Q18.この授業で扱われた分野への関心が高まりましたか。」「Q19.この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。」「Q20.この授業を総合的にみて、満足できましたか。」の 4 つの設問で、「肯定的」「(やや肯定的)」の肯定的な自己評価をしたのは、全学年平均で、Q17.が 62.0%、Q18.が 67.2%、Q19.が 59.8%、Q20.が 71.0%である（B4-4-1、B4-4-29 d2-表 25～表 28：要変更；)。 2016 年度の卒業生アンケートでは、「Q2.所属学部・学科についての専門的知識が身に付いたと思いますか？」「Q4.大学 4 年間で自分の目標を達成できましたか？」「Q5.社会を生き抜く力（マナー、自己管理力、コミュニケーション能力、問題解決力など）が身に付いたと思いますか？」について、外国語学部平均で、「そう思う（肯定)」「少し思う（弱肯定)」が、Q2.は 86.9%、Q4.は 80.6%、Q5.は 85.2%である（B4-4-2、B4-4-29 d2-表 29～表 31；要変更：データは修正済み)。 2016 年度の 2 年から 3 年へ進級率は 90.2%、卒業率は 86.5%、卒業者の就職決定率は 93.9%(就職希望者に対する就職者の比率)、卒業生に対する就職者比率は 77.4%である（B4-4-29 d2-表 11、表 13、表 14)。 「学力の 3 要素：①十分な知識・技能　②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力　③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をどう数値化し測定するかの方針が掴み切れていない現状において、学習成果の評価指標を策定することは困難である。
4-4-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用について【×】 具体的事例：
4-4-2	卒業に必要な単位数は、学科ごとに学則に定めている。学位授与は規程に則って学部教授会において成績・判定資料により決定しており、適切に行われている。また、卒業要件は外国語学部履修の手引き『徑』によって、学生にあらかじめ明示されている(A4-4-5 p.21～p.22)。
4-4-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** 学位授与基準、学位授与手続きの適切性について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	・学習成果指標を策定し、実施報告書を作成する。
4-4-2	

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014　～2018）	4-4-1　・学習成果の評価指標を開発し測定システムを構築する。	・多面的・多元的な評価指標の開発と測定システムの構築が行われている。	→			C	C	
16 年度目標	4-4-1・学習成果の評価指標を策定し、実践結果を公表する。	・ホームページに公開、あるいは報告書として公刊される。				C		
17 年度目標	（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月） 4-4-1・学習成果の評価指標を策定し、実践結果を公表する。	・学部教務委員会で検討が行われ、各学科においても議論が重ねられる。					C	

Ⅳ　評価専門委員会所見

４-４-１【現状】
　授業評価アンケート及び卒業生アンケートの前年度や前々年度との比較が必要と思われます。また卒業生に対する就職者比率が他学部と比較して低い問題についても取り組むべきでしょう。それから学力の３要素をどう数値化し、測定するかの方針が掴み切れていないとのことですが、①の十分な知識・技能は外国語の検定試験等である程度測定できるのではないかと思います。
【目標】
　多面的・多元的な評価指標についてどのような議論があったのか、今後具体的にどのようにしたいのかをできれば書いて下さい。

Ⅴ　所見への対応

４-４-１【現状】ご指摘のとおり、過去のデータとの比較が行われていない点を、今後解消する必要があろうかと思われます。卒業生に対する就職者比率が他学部と比較して低い問題は、従来より指摘されており、学部事務室、キャリアセンターも真剣に取り組んで頂いています。特に進路報告書の提出率が低いために就職者比率が低いままになっていることが問題点でもあり、現在この点を解決するために早い段階から取り組んでいます。
４-４-１【目標】各学科、あるいは学部教務委員会の段階での議論はまだほとんど行われていないのが現状ですが、外部業者からのプレゼンが幾つかあり、実現可能なプランであれば各学科への情報提供とともに、実施の可否について検討を依頼する予定にしています。

Ⅵ　次年度への課題

・学習成果の可視化を測る指標の策定を行う。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-1　　大東文化大学学則　≪既出≫A1-1
A4-4-5　　外国語学部　徑（履修の手引き）　≪既出≫A4-1-9
B4-4-1　　学生による授業評価アンケートと大学教育　2015 年度　≪既出≫B3-12
B4-4-2　　FD 報告書　卒業生アンケート 2015 年度　≪既出≫B4-3-27
B4-4-3　　学生生活調査（アンケート）　≪既出≫B1-7
B4-4-22　大学 HP ニュース　「ダブルディグリー・プログラム第一期生卒業」
http://www.daito.ac.jp/news/details_10853.html
B4-4-28　大東文化大学（日本）と華僑大学（中国）との交流協定書
B4-4-29　大学データ集　≪既出≫B1-22

〔追加資料〕
学園の現況平成 27 年（2015）年度

学生による授業評価アンケートと大学教育　2016 年度

FD 報告書　卒業生アンケート 2016 年度